

いしづち

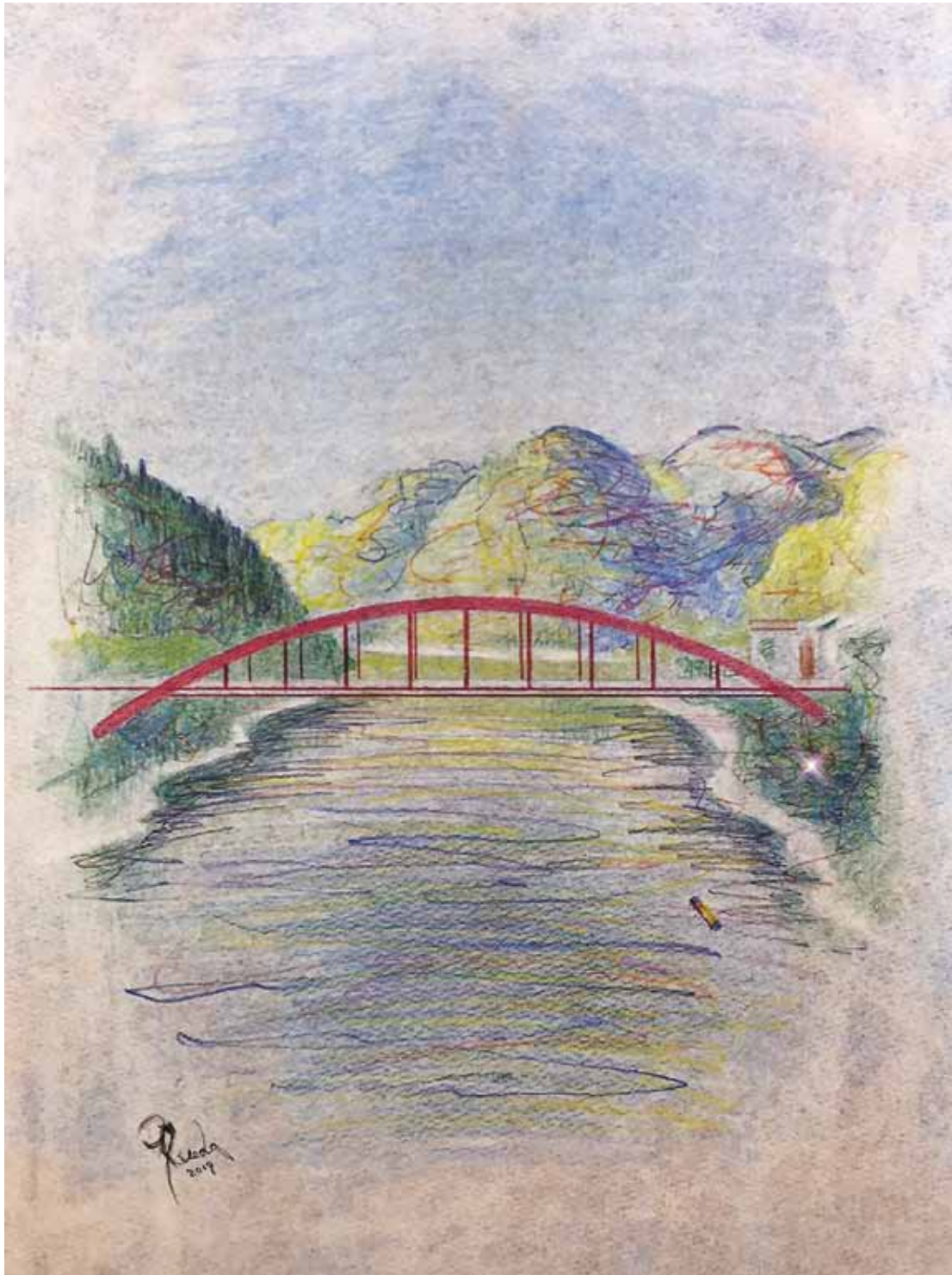
2019.11

No.131



公益社団法人 愛媛県建築士会

<http://www.ehime-shikai.com>



伝統建築物 高野長英居住地跡
委員会 事業報告
建築士の日の事業報告

1	伝統建築物	高野長英居住地跡 スケッチ紀行 橋のある風景 九島大橋、細木橋、板島橋	宇和島支部 酒井 純孝……① 松山支部 安藤 雅人……⑤
2	建築士の日の事業報告	無料住宅相談会 建築士の日の行事報告 建築士の日の行事報告 西条支部 建築士の日の行事報告 ①家づくりなんでも相談 ②高須海岸漂着ごみ等撤去作業 ③小松ふるさと祭りin耐震診断・耐震改修アピール活動 小島海岸並びに砲台跡清掃ボランティア 家づくり体験 安心安全なまちづくり・建築士の仕事のアピール活動 ジオパーク研修(宇和町編)	四国中央支部 稲村 聡……⑥ 新居浜支部 和田 卓巳……⑦ 八幡浜支部 青年部 安藤 嘉晃……⑦ 西条支部 越智 忠美……⑧ 今治支部副支部長 曾我部 準……⑩ 松山支部長 武内 邦彦……⑪ 伊予支部長 濱本 浩……⑫ 西予支部長 信宮 靖……⑬
3	委員会 事業報告	明治時代に移築された新谷藩の武家屋敷(團上邸)調査 暮らし+(プラス)勉強会 モザイクタイルコースター作りワークショップ報告 令和元年度中四国若手建築志(士)交流会 in おかやま報告	文化財・町づくり委員会 菅野 隆次……⑭ 女性委員会 永井 由紀……⑯ 青年委員会 副委員長 長岡 康広……⑰ 松山支部 武智 良太……⑱
4	けんちくの輪	ねこ けんちくの輪	今治支部 重松 憲太郎……⑳ 松山支部 八束 智恵美……㉑
5	お知らせ	令和元年度第3・4回理事会概要報告	事務局……㉒
6	ブレイクコーナー	short short story 「HOUSE」 第7話 Roof top 田真 夕楽……㉓	

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

題：「肱川と赤橋」上田 勇一
[表紙画について]

野村町肱川は、愛媛県の南予地域を流れる肱川水系の本流で、一級河川である。長さ103キロメートルと比較的長大な河川であるにもかかわらず、源流部と河口との直線距離が僅か18キロメートルと、その屈曲振りが窺える。「肱川」となった理由については諸説があり、定かではないが、「肱のように屈曲しているから」という。肱川は古くは、「比志川」あるいは「比治川」とも表記され泥土やぬかるみを「ひじ」と呼び、「比治」などの字を当てていた。こうした「ひじ」の多い川で「ひじかわ」となったというのが一説である。

※参考文献/Wikipediaより

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライブラワー」收藏される
- 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載 絵画教室やオリジナルブランド額工房「榊リチエルカ」を設立
- 2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

高野長英居住地跡

宇和島支部 酒井 純孝



高野長英居住地（宇和島市）

1. 概要

高野長英（1804～1850）は、胆沢郡水沢（現在の岩手県水沢）で伊達氏の家臣後藤摠介の三男として生まれる。母は高野家の一門の美也。その後、父の死後長英が14才のときに、高野家に復籍し、蘭学者高野玄齋の養子となって、玄齋の一人娘千越と婚約し、水沢藩の侍医高野家を継ぐことになっていた。

文政3年（1820）養父の反対を押し切って長英は江戸へ行き、さらに長崎行きを強行したため養父と断絶となった。長崎から江戸に戻ってから帰郷を拒絶し、高野家の跡目相続を断り、千越との婚約も破棄する。学問に生きることに徹した長英は、封建社会と真っ向から対決し、自分の考え方を通した。

天保10年（1839）頃の幕府は、命令にそむく不穏な動きのある者は手段を選ばず弾圧していた。5月14日渡辺華山^{※1}が揚屋^{※2}に入牢され、家宅捜査では長持いっぱい書籍と書簡類が押収された。その3日後、小関三英^{※3}が牢獄生活に耐えられないと判断し、床柱にもたれメスで頸の動脈をきり自殺した。長英は、「夢物語」が幕府批判とされ牢獄となった。渡辺華山は三河国田原に護送され天保12年（1842）自ら命を断った。

長英入獄から約5年後、弘化元年（1844）6月30日未明、小伝馬牢屋敷の物置から火の手があがり、百姓牢と揚座敷牢とが切放ちになり、63名の囚人が放された。その中に長英もいた。指定された場所に囚人が帰らなかったのは、長英を含めて7名であった。長英は友人の所に潜み、すぐ江戸を抜けだし、門人たちの庇護を受けながら北上。郷里で母と再会を果たすと米沢に向かい、長英に理解のある蘭方医の援助を受けながら再び江戸に

潜入する。江戸で支援をしたのは鈴木春山^{※4}と長英門下の内田弥太郎^{※5}であった。

- ※1 渡辺華山（1793～1841）江戸後期の洋学者・南画家 三河国田原藩
- ※2 揚屋（特別な牢屋）
- ※3 小関三英（1787～1839）江戸後期の蘭学者 出羽国
- ※4 鈴木春山（1801～1846）江戸後期の欄医・兵学者 三河国田原藩
- ※5 内田弥太郎（1787～1839）長英門下

2. 宇和島の生活

長英はこの時すでに江戸で結婚して、鈴木春山から兵書の翻訳で生活費を稼いでおり、春山に依頼して家族が暮らせる場所を探していた。その頃は、門下生の内田弥太郎が長英の世話をしていた。

当時幕府は洋学者・蘭学者の弾圧がひどく、脱獄した長英は捕まえられ処刑されると伊達宗城は心配し、松根図書に長英を探してほしいと依頼をしていた。そのことを弥太郎が知り、図書に連絡をつける事に成功する。長英が健在であることを知り、宗城は大変に喜んだ。弥太郎は、長英に「宇和島に行き、安心出来る場所で生活をしてはどうか」、と説得した。

<長英は、この時期は春山がやり残していた「プロシアの将校プラントの三兵戦術書」の翻訳全27冊が完訳間近となっていた。これは、オランダのミュッケルが欄訳したものの重訳であり、歩兵、騎兵、砲兵の戦術や訓練が詳しく書かれたもので、この兵書を「三兵答告知幾」と題名をつけた>

3. 宇和島へ行く条件

松根図書は弥太郎の家を訪れ高野長英を招くに当たって条件を明かしていた。

役目は蘭書翻訳御用で4人扶持とし、翻訳の謝礼はその都度相当なものを支払う。期間については長英の望みを優先する。藩としては藩士に語学の稽古をつけてもらいたい。できるだけ長く滞在してくれるとありがたい。もし宇和島に永住するなら、江戸に残す家族も日を改めて宇和島に来られるよう手立てする。

4. 宇和島での仕事

宇和島には、高島秋帆が長崎で集めて、幕府に没収された兵術書が大量に貸し出されている。

天保13年（1842）10月、砲術家として知られていた長崎奉行の伊沢美作守に高島秋帆が、幕府への謀反密貿易の讒訴で逮捕された際、秋帆が所蔵していた

130冊の蘭書が没収された。そのうち110冊は兵書であった。本の中には海軍砲術書、砲兵練典などの多数の蘭書があり、それを宇和島に持ち帰った。又、佐賀藩主鍋島直正から借りた火術書、野戦砲術書、火薬製法説書、などオランダの兵書を筆写させたものを宗城が蔵書していることを長英に伝えた。「西洋の軍事科学書は今、宇和島にある」と伝え、宗城は長英に翻訳の協力を強く求めた。

5. 宇和島までの道中

春が過ぎ雨が多くなった。

日が落ちると、長英が隠れ住む所から門下の弥太郎家を訪ねて、初めて松根図書と会った。名前を言わず、客人同士で会い酒を酌み交わしながら、鬚を落とし僧侶をよそおった長英は、奥州なまりで諸外国のことを話し始めた。図書は顔を赤らめながら、伊予弁丸出しで宇和島の自慢話をした。図書は、たちまちに長英の深い学識に魅了され、宗城にそのことを伝えた。

この時「三兵答苦知幾」にきりが出来たので、長英は宇和島へ行く気になった。

元号が改まり嘉永元年（1848）2月下旬長英は従僕の昌次郎を伴い、藩医の富沢礼中に同行して江戸を出発した。道中の名は伊藤瑞深と名乗った。招聘されて宇和島に行くのに道中が心配だったが、何の支障もなく大阪の宇和島伊達藩屋敷についたのは3月14日の夕暮れだった。

参勤交代で江戸に向かっていた宗城は大阪の藩邸で長英と会い、蘭書と羽織を与えた。その時には「知彼一助」の本を読んでいたので、宗城は長英に礼を申し、もてなしをした。この時に宇和海でおこった四貫目砲の船中発射のありさまを話し、砲台と弾薬庫の建設場所について長英の意見を求めた。今後の宇和島のことを宗城が話したが、どんな質問にも長英は理路整然と応え、宗城は畏敬のまなざしで耳を傾けた。

3月23日礼中と長英は宗城を見送ったあと、室津から海路宇和島に向かい4月2日の夜明けに宇和島湾の舟入場に着いた。

6. 宇和島での住居

藩の用意をした家に入居したのは4月7日だった。

この家は国家老桜田佐渡の別荘で、町人が住む横新町にあるため家老が出向かなくなり、空屋だった。別荘といっても小さな平屋の家だが、家老の家なので建物に接

近して湯殿があった。又南・東に廊下があり、北面は辰野川の川岸に接していた。礼中に案内されて長英が家に行くと、隅々まで雑巾掛けがされていて部屋も真新しくなっていた。土間から入り奥の6畳に入って障子を開けると清い水の小川が流れ、右手に小さな橋があり、おびただしい小魚が鱗を光らせて流れに向かって泳いでいた。長英が部屋で江戸から運んだ書物をかたづけていると、礼中が下男の新吉^{※6}と端女のとよ^{※7}を連れてきた。とよはすぐに昼餉の支度に入り下男、新吉は通りに面した板塀の修理に取りかかった。

※6 新吉 近くの魚屋のせがれ

※7 とよ 近くの髪結いの娘

六畳の奥座敷で二人きりになると礼中がたずねた。

「伊藤先生宇和島はお気に召されましたか」

「海も山も美しいところです。道行く町人の足取りがのどかなので気が休まります」

「お気に召しあがりたいところです。宇和島は水も良く、うまい酒もある。こんど頃合いをみて評判の茶屋におつれいたしましょう」

「そうですか。それは愉しみに致しております」

長英は自由になったことを肌で感じていた。長英は人相書きに記されるほど酒ずきである。「昔から浪速酒と島田女と申しますが伊藤先生、伊予の女も捨てたものではありません。気立ての優しさは天下一品でござる」

「このような美しい土地なら、さぞかしそうでしょう」長英の表情はすっかり緊張がとれお世辞を口にするほど余裕ができた。同じシーボルトの門人の二宮敬作が長崎払いになって郷里の卯之町に帰っている、と人づてに聞いた。

「卯之町は、ここからいかほどの所か、お教え願いたい」

「歩いて半日ほど、山間の宿場町です」

「二宮敬作という蘭方医がいるはずですがご存じですか？」

「二宮どのなら名の知れた名医ですから、この地では知らない者はいませぬ」

敬作は百姓の出だったが帰郷後、宗城から帯刀をゆるされ士分にとりたてられていた。そのことを礼中が話すと、目尻をさげた。

ところで、と礼中は声をひそめて話を変えた。

「とよは婚期をのがした娘ですが気立てがよく、働き者です」

「先生の晩酌のお相手もするよう、とくと申しつけております」

「そのようなことまで、お気遣いは無用でございます」
「なに御遠慮なさりますな。とよは通いでござらぬゆえ」

長英はぎこちなくうなずき、顔を少しあからめた。

礼中はそしらぬ顔で本題の訳業にふれた。数日中には藩で見習い、オランダ語の一部を届ける事にした。

(この時分は、妻以外の女性を身近に置くのは自然に近いものであった)

昼から長英は昌二郎をともない、辰野川の川筋にそって上流に出かけた。

「この先には、金剛山大隆寺という名刹がございます」と昌二郎が説明した。

「伊達家菩提寺の住職晦庵道廓和尚で名僧という評判です。お会いなされますか？」

「そのような時がくるかもしれぬ。そのおりには」

長英は会うとすれば、ずっと先のように思っていた。

それから3日後礼中がお供を連れて現れた。6畳の間に50冊をこえるオランダ語の兵書を種類ごとに並べてオランダ語、ドイツ語、英語、の辞書を並べた。長英は「砲台学入門」の写本をとり、これから翻訳をするが良いか尋ねると、

「それは上様がのぞんでいるところ。かたじけない」と礼中が言った。

「洋学を学ぶ者は決まりましたか？」

礼中は頷き、懐紙に墨書した藩士の名前を長英に見せた。谷礼中・土居直三郎・大野昌三郎の3名。藩がよりすぐった青年たちだった。

6畳部屋は長英、4畳は昌三郎が使用していたが、5月から4畳は3人の稽古場になった。その稽古場は、「五岳堂」と称して勉学稽古が始まった。それから後に門下生は増えた。5月下旬には、二宮敬作が息子の逸二を連れて、長英を尋ねてきた。天保11年(1840)敬作はシーボルトの娘イネを預かり、卯之町で蘭学を教え、イネは医師を目指し勉学に励んだ。イネととよは同い年であった。

その後イネは、自分の希望でシーボルトの門下生だった岡山の石井宗謙の所で産科を学んでいた。長英は宗謙と聞いて顔を曇らせた。

歳月が流れて江戸の妻子から生活の状況が書かれた手紙が届いたが、毎日の生活は4人扶持の手当から仕送りの金銭まではできなかった。このことを知った礼中は自

分のお金を江戸に金3両を立て替えて飛脚を出して妻子の生活まで協力する事になる。

そのように良い環境で門下生に蘭学を教えながら、砲台の設計図も完成し砲山門を岬の先端に築かせた。その場所は東西の湾の中央に出ていて、遠く土佐湾まで一望できる所で、これにかかった期間は足かけ1年位であった。

やがて江戸藩邸から長英が宇和島にいることを幕府が察知したという早飛脚がきて、長英は慌ただしく宇和島を離れる。その折、門人の齊藤丈蔵に当たった手紙に「男子は 為僧」とある。とよは妊娠していた。長英は男の子が出来ると同じ罪になるので、避ける為、僧にして欲しいと頼んでいる。「とよには暇遣わす」とあって、とよに10両、生まれた子に5両を渡すようにと記した手紙を預けている。

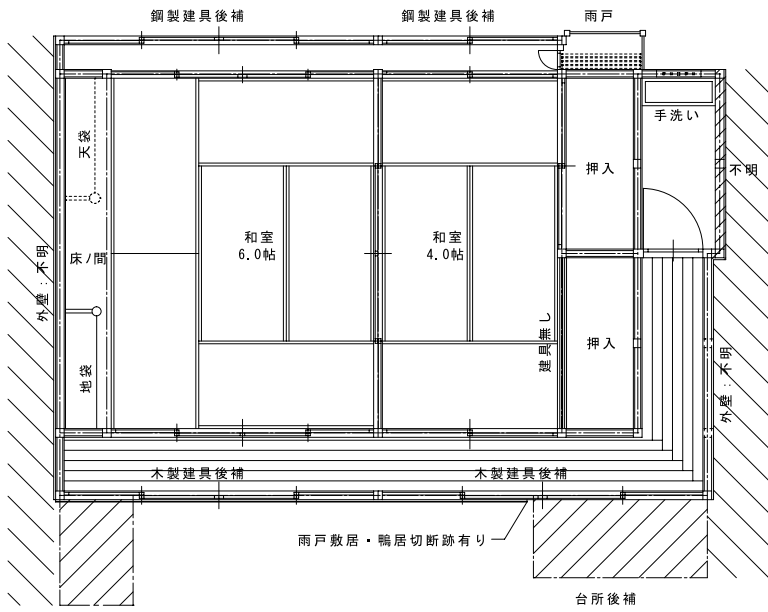
宇和島を去るときに藩は200両の金を与え、長英はいったん広島へ向かっているが、道を引き返し卯之町の二宮敬作のもとに赴いた。敬作は長英の身を案じて自分の家の前にある大庄屋清水甚左衛門の屋敷にかくまってもらっている。その家は現在も残っている。

その後長英は沢三泊の偽名を使い、更に顔を薬品で焼いて江戸の青山百人町で細々と医を業としていたが、嘉永3年(1850)補史に踏み込まれ自刀したとされている。

月日が流れ明治新政府になり、長英は犯罪者扱いでお墓も建てる事が許されなかったが、明治9年(1876)明治天皇が東北巡幸の際、長英について質問された事から明治12年(1879)岩手県水沢市大安寺に墓を建立した。そして長英の功績が認められ明治31年(1898)正四位が送られた。この年に勝海舟が東京都港区北青山善光寺に碑文を建立し、功績を讃えている。

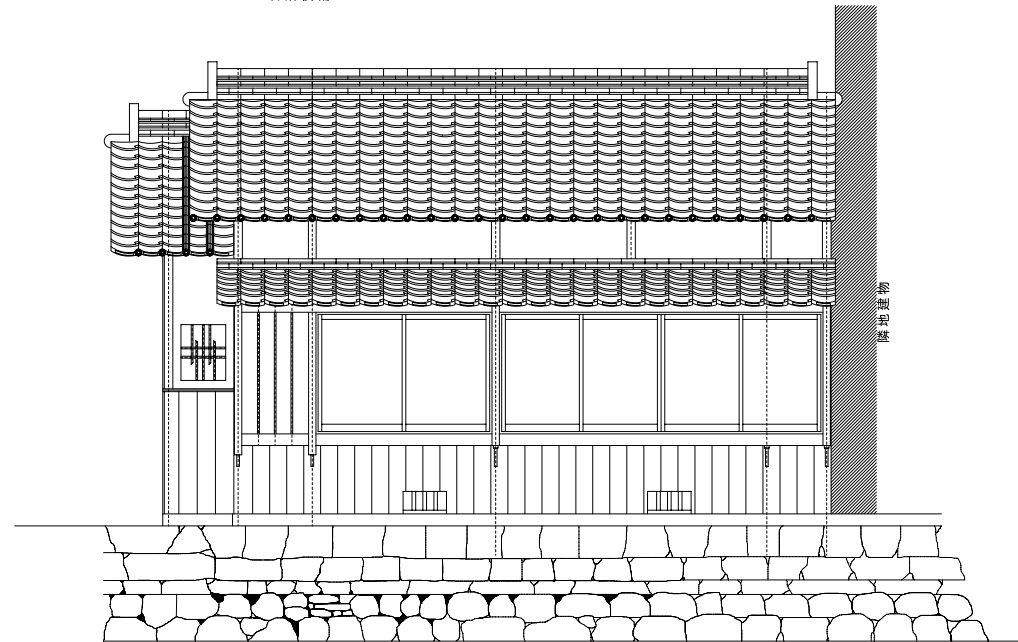


居住地跡を辰の川側から見る(宇和島市)

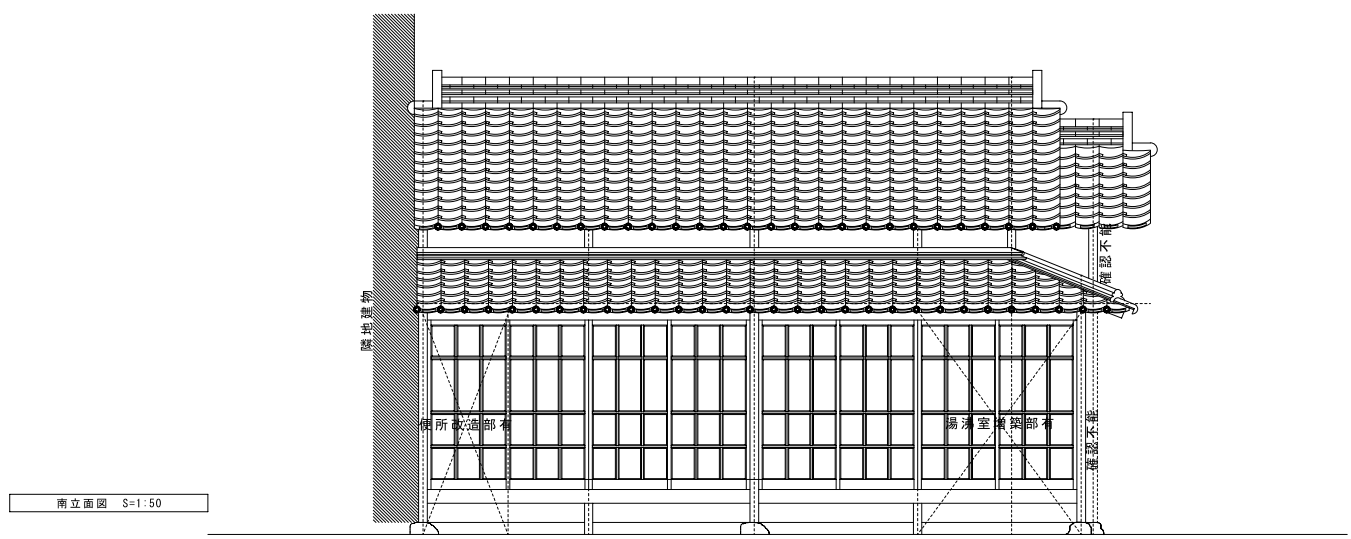


便所後補

南立面図 S=1:50



北立面図 S=1:50



南立面図 S=1:50

橋のある風景 九島大橋、細木橋、板島橋

松山支部 安藤 雅人



九島大橋のライトアップ

私は、大きな建築よりも、住宅のような小さな建築が好きです。また、最近、少し興味が変わって来ましたが、丹下健三さんのような構造表現主義的な作品よりも、カルロ・スカルパのような工芸的な作品が好きでした。ですから、当然、土木には殆ど興味がありません。巨大なダムやトンネルを観ても、どこが良いのか分かりかねます。でも、橋だけは好きです。海や川が好きなこと、構造の美しさが分かり易いこと、人々の交流の歴史が感じられること等が理由だと思えます。

県内に限っても、しまなみ海道、長浜大橋、大洲五郎の橋、内子の屋根付き橋等、沢山の美しい橋があり、観光名所にもなっています。取り上げると切りが無いので、今回は、宇和島市内の橋をご紹介します。

最初に取り上げるのは、九島大橋です。島民の悲願であった架橋が実現し、とても、便利になりました。また、気軽に島に渡って、サイクリングやハイキングを楽しめるようになりました。島内の道をもう少し整備していただけると、もっと、素晴らしい観光地になると思えます。夏場に、橋のライトアップが実施されました。恥ずかしながら、それまで訪れたことが無かったのですが、良い機会だと思って、夕方に訪れました。日が暮れるにつれて、徐々に光が見えて来て、とても美しかったです。スケッチを描いてみましたが、夜景は難しいですね。ちょっと暗く塗ると真っ黒になるし、塗らないと夜景だと分かって貰えないし、これは、練習が必要そうです。

次に紹介したいのは、蔭淵の細木橋です。正確には、この橋を渡った先が蔭淵と言うことでしょうか。この橋の素晴らしいところは、とても狭い、切り立ったところ



蔭淵の細木橋

の最上部にシンプルで軽快な橋が架かっているので、浮遊感があると言いますか、橋が宙に浮いている様に感じることです。まだ実行できてないですが、この橋の下をボートで潜ったら楽しいと思います。蔭淵は半島の先端なので、宇和島中心部からかなり遠く、陸の孤島だとか言われていますが、景観がとても美しく、また、カフェ・コモテラスも出来て、遊びに行き易くなりました。

最後に紹介するのは、意外な場所、板島橋です。道の駅ささいや広場の近く、来村川の河口に架かる、とても交通量の多い橋です。4月から、毎日、通勤の時に、この橋を観ていますが、手前の川面に浮かぶ廃船や、係留用の棒の先に留った野鳥の向こうに板島橋、更に遠くに九島を臨む景観は、余り、注目されていませんが、美しいと思います。また、夜の帳が下りる頃に、川沿いの道を通ると、板島橋付近の交通信号機や、お店のネオン看板が、水面に写って、美しい光の杭が並んでいるのを観ることができます。

その他にも、日本最初の法学者の穂積陳重に因んだ、ほづみ橋も、小さな橋ですが、とても趣があります。職場のサイクリングチームの後輩の女性に、私の大学の恩師の穂積先生の先祖の橋があるという話をしたら、彼女の先祖の橋もあると教えてくれました。毛山橋です。



板島橋

無料住宅相談会

四国中央支部 稲村 聡

開催日：令和元年7月27日(土)
開催場所：川之江商店街
参加者：建築士会会員9名

毎年恒例となっていますが、今年も建築の日の事業として我々四国中央支部は、地元で行われている紙祭りに合わせて、無料住宅相談会のブースを出展致しました。当日は天候にも恵まれ暑い中多くの来場者が来られ、お祭りは盛大に行われていきました。

さて、内容としましては無料住宅相談会のブース出展なのですが、多くの子供たちが来場されることを考えて、子供たちが遊べる何かを、毎年一緒に提供しています。建築士会として、何か物づくりに通じるような楽しい遊びを提供したいと考えて、今年は昨年開催して大好評だったので、引き続きストリングアートという工作教室を同時開催致しました。

ストリングアートとは、立体的に浮き上がった模様を作る工作です。簡単に言うと、板にデザイン画をセットしてその形を釘でなぞって打ち付けていき、その釘を毛糸で結んでいくと板の上に立体的な模様が出来上がっていくというものです。



当日は朝10時から夕方4時までの時間でしたが、終始多くの親子連れに参加頂き、我々会員も忙しく対応させて頂きました。中には、去年やったよ～、と言ってくれた子もいっしょに、昨年同様工作を楽しく体験して貰いました。

今年のデザインは昨年よりも凝ったものを用意していて、大人でも一時間くらいかかるものもありましたが、参加者の皆さんは思い思いに好きなデザインを選んで楽しんで貰いました。釘をハンマーで打つ、デザインを元



に仕上がりを考えて毛糸を結ぶ、自分の力で作る事の達成感、などを子供たちに経験して貰えたのではと思っています。

最後になりますが、準備から当日の活動に忙しい中、ご協力いただいた青年委員の皆様には厚く御礼申し上げます。昨年同様、あまりお金がかからないように下地の材料の用意から始めて、見本の作成までご協力いただきありがたく感謝申し上げます。また、当日は青年委員以外の会員の方にもご協力いただき、おかげさまで盛況なか事業を展開する事が出来ました。ありがとうございました。

来年は、どういった催し物をするかまだ考えていませんが、来てくれた子供たちに、建築士として何かものづくりを通した楽しさを感じられる体験を提供したいと思っています。以上、四国中央支部の建築の日の事業報告でした。

建築士の日の行事報告 新居浜支部 和田 卓巳

実施日：令和元年6月30日(日)
 活動内容：建築相談など
 実施場所：イオンモール新居浜
 参加者数：15名

6月30日(日)に、毎年お世話になっていますイオンモール新居浜（2Fイオンホール）で9：00～17：00まで開催しました。

昨年同様、日曜日だけの1日開催で行いました。また、今回は、プロジェクターを使いCAD図面の実演も行いました。

内容

- 建築士による建築無料相談
- 建築士による実施工パネル展示
- 園児によるお絵かき展示
- 新居浜左官業組合さんによる左官体験（塗り壁体験、泥団子作り）
- 尙久門工業所さんによる板金折り鶴・折り亀実演
- プロジェクターを使ったCAD実演
- 箸作り体験
- アンケート

今回も、桧材を鉋で削って作る箸作り、左官業組合さんの泥団子作りなども体験して頂き、たくさんの来場者が集まり楽しいイベントとなりました。



お絵かき展示



箸作り体験

建築士の日の行事報告 八幡浜支部 青年部 安藤 嘉晃

開催日：令和元年8月17日(土)
 開催場所：新町商店街（八幡浜市）
 参加人数：7名

昨年は、豪雨災害の影響で、なかなか人数も揃わず、寂しい建築士の日でありましたが、今年は7名が参加でき、青年部としての体裁を何とか整えることができました。

今年の出し物は、「アーテックブロック」となりました。「アーテックブロック」とは、すべての面に異なる凹凸があるブロックで、一見単純な形のものでもレゴの様には簡単に作れない、建築士に求められる立体把握能力が身につく知育玩具という感じのものです。

さて、子供たちの反応はというと、一番簡単そうなアヒルの形でも最初は四苦八苦していましたが、コツを覚えると次々と難易度を上げて作り上げ、楽しんでもらえました。そして作り上げた形の数の分だけ、支部景品伝統のうまい棒を貰って、笑顔になって帰ってくれました。

八幡浜支部青年部の部員数も年々少なくなっており、主だった活動もなかなかできない状況がここ数年続いておりますが、今後もこの「建築士の日の行事」は、子供たちの笑顔のためにも、未永く続けて行ければと思います。



西条支部 建築士の日の行事報告

西条支部 越智 忠美

①家づくりなんでも相談

(西条支部・新居浜支部合同開催)

開催日：令和元年6月30日(日)

場 所：新居浜イオンモール

会 員：11人、賛助2社

- 建築士による無料相談
- 木造住宅耐震相談
- 建築士による実施工事例パネル展示
- CAD実施作図体験 及びVAR体験
- 左官体験
- 箸づくり体験
- 板金折鶴実演
- 園児による「お絵かき」展示

新居浜支部・西条支部合同で今年も建築士の日のイベントを新居浜イオンモールで開催しました。毎年上記のような展示、体験コーナーを設置し、誰でも気軽に入場、見学できるように心がけています。少しでも多くの人に来てもらって、建築士や関連業事業者の仕事を身近に感じてもらいたいと思っています。また新しい情報も一般の方に広くお知らせできればと思っています。

イベント終了後は、合同で懇親会を開き西条、新居浜支部の親睦を図っています。合同イベントを始めて10年以上になりますが、両支部の会員の距離も少しずつ近くなり、非常に良い事業だと思っています。これからも、長く続けていけたらと思っています。



建築士の日のイベント（新居浜イオンモール）

②高須海岸漂流ごみ等撤去作業

開催日：令和元年7月7日(日)

場 所：西条市高須海岸

イベント参加者：500人

行事活動参加者：正会員15人 賛助会員8社

今年度も「受け継ごう きれいで豊かな瀬戸の海」をキャッチフレーズに美しい瀬戸内海を取り戻すため、瀬戸内海に面している西条市の関係機関や企業が当趣旨に賛同して高須海岸の清掃奉仕活動作業を実施致しました。今回も晴天に恵まれて西条支部会員一同は清々しい汗を流すことが出来ました。

今年は若干漂流ごみが減ってきていると感じました。これも市民のごみを捨てないという意識が根付いてきたのかなと思いました。

西条支部ではこれからも地域を良くする為にこの活動を続けていきたいと思っています。





高須海岸漂流ごみ等撤去作業

③小松ふるさと祭り in 耐震診断・耐震改修アピール活動

開催日：令和元年7月27日(土)

場 所：小松町商店街

イベント出場者及び観客：1000人

行事活動参加者：10人

西条市小松町で商店街を歩行者天国にしてのふるさとまつりイベントの一環として、建築士による耐震診断・耐震改修無料相談を行いました。

西条市建築審査課と共同して、耐震診断・耐震改修のティッシュを配布しました。

昨年までは、丹原町の七夕まつりに参加していましたが昨年で最後の開催となり、今年は小松町のふるさとまつりに初めて参加させていただきました。小松町ふるさとまつりも大きな笹飾りがあり、賑やかなお祭りだと感じました。西条支部で耐震診断紹介のチラシとティッシュを配布しました。少しは、愛媛県建築士会西条支部が社会に貢献できたでしょうか？

来年からも建築士会を宣伝する事業を積極的に行いたいと思います。



小松ふるさとまつり

小島海岸並びに砲台跡清掃ボランティア

今治支部副支部長 曾我部 準

実施日：令和元年7月7日(日)
 活動内容：清掃ボランティア活動
 実施場所：今治市小島
 参加者：13名

今年の今治支部は清掃ボランティアに挑戦しました。場所は今治市波止浜の沖合に浮かぶ「小島」。ここは日露戦争に備えて芸予要塞が築かれた島で、来島海峡を通過するロシア艦隊を阻むために砲台が設けられていました。結果としては使われなかったために結構きれいなままの要塞跡が残されているというそういう島です。筆者の地元のため小学生のころは毎年海水浴に訪れた島でもあります。

さて当日は梅雨の最中のこと、幹事としては当日の天気気に気を揉んでいましたが何のことはないピーカン晴れ。参加者みなさんの日頃の行いの良さでしょう。

7:30に波止浜港集合。8:00の便で10分の船旅です。波止浜湾の造船所を海から眺めたり、海底から湧き上がってくる潮流を見たりとちょっとした遊覧船の気分です。小島に上陸した後は地図を見ながら行程の説明。



それから各自清掃活動です。まずは海岸の遊歩道沿いに進みます。ぱっと見ではきれいな印象ですが、ひとたび草むらに入ると多くのゴミが散見されます。ビンやら缶やらプラ容器やら何年前のパッケージ? というものも出てきます。燈台のある岬を廻りこむと砂浜に出ます。ここでも同様にビン、缶がありますが捨てられているというよりはどれも「流れ着いた」というようなものばかりです。

特筆すべきは発泡スチロールの容器と食品トレー。いざゴミとなって長時間紫外線にさらされたものを拾おうとするとつまんだだけでそこからポロポロに崩れます。昨今話題になっている「マイクロプラスチックによる海洋汚



染」という言葉が頭をよぎります。安価で軽くて断熱性能はよくて非常に使い勝手がいいのは分かっていますが、この状況が自然環境によくないもの分かります。「さて、どお~したもんかなあ…」などと考えながら拾っているうちにすぐにゴミ袋がいっぱいになりました。

今度は海岸を離れて砲台跡に続く遊歩道へ。こちらは島民の方々の清掃が行き届いているのかゴミは少なかったのですが、目に付いたのは



袋のような包装のためのビニール製品でした。ゴミも拾いながら砲台跡も見学しながらの清掃活動で可燃物、不燃物合わせて40袋ほどのゴミを回収してきました。ちなみにゴミ袋は市の担当課に言えばボランティア用のゴミ袋が用意されていて、陸地までもって帰っておけば収集もしてくれます。

私は幹事ではあるものの、最初は清掃ボランティアってどうなのだろうと少々懐疑的なイメージがありましたが、集めたゴミを前にすると達成感もあるし、部分的ではあるもののキレイに出来たという満足感もあるしで、案外楽しい活動でありました。波止浜港まで収集物を運んだあとは大角の鼻で懇親会を開催。こんな活動なら今後も続けていけるのではと、ひとつのきっかけが掴めたような建築士の日でした。最後になりましたが活動に参加して頂いた支部会員のみなさまには大いに感謝すると共に、今後の活動にもご協力いただけるようお願い申し上げます。



家づくり体験

松山支部長 武内 邦彦

開催日：令和元年8月3日(土)
 開催場所：松山市古川町
 参加人数：児童18名 保護者18名 スタッフ13名

建築士の日の事業として、松山支部では昨年まで10年間にわたり「建築巡礼 in まつやま」のネーミングで建物見学会を実施してまいりましたが、参加者の年齢が高齢者に偏り、さらに複数の方が毎年のように参加している状況がありました。建築士及び建築士会を社会に周知するための活動であることを考えると、若い世代で今後建築業界に進むことも考えられる世代や、マイホームの建築において建築士との接点が考えられる世代を対象にできたら良いのではないかと、との思いで今年新しい企画を実施いたしました。



参加者へのアンケートの集計の一部を掲載します。



「建築士の日」家づくり体験「建築模型を作ってみよう!」です。募集対象は、小学生及びその保護者とし、親子で楽しめる内容です。小学生に家を作るのは大工さんではなく、「建築士」なんだと知ってもらい、将来建築士を目指してもらえれば大変良しです（大工さんを目指してもらえればそれも大変良しです）。さらに、保護者の方々には、建築物に対する建築士の役割などをもっとPRできれば良かったです。



5.全体の印象	6.今後期待のイベント	その他
楽しめた		士会のスタッフの方にごく親切にしてくださいました。
楽しめた		
対応・楽しめた	実際に参加したい	スタッフの人数が多くて質問がしやすかった
対応・楽しめた		
対応・楽しめた		
対応・楽しめた		
OK	楽しめた	お家作りが楽しかった
対応・楽しめた		
対応・楽しめた		来年もやってほしい
テーマ		
対応・テーマ・楽しめた	テーマ次第です。	全てに対して良かったと思います。
対応・テーマ・楽しめた		
対応・テーマ・楽しめた		
対応・テーマ・楽しめた		
対応・テーマ	街のジオラマ	

文字が読めないと思いますが、全員に楽しんで頂きました。また、「建築士の日」については、ほぼ全員が知らない状況でした。今後PRの仕方などを工夫すればさらに良い周知活動になるのではないかと感触を得ました。

なお、この活動について、愛媛新聞に記事として掲載して頂き、事後の周知にも貢献することが出来ました。



今回も、長岡委員長をはじめとする青年・女性委員の皆様には、入念な準備と忙しい中でのリハーサルなど全般について大変お世話になりました。おかげさまで無事故で成功を収めることが出来ました。ありがとうございました。

安心安全なまちづくり・建築士の仕事のアピール活動

伊予支部長 濱本 浩

実施日：令和元年7月28日(日) 伊予彩まつり
令和元年9月 7日(土) 下灘駅

活動内容：安心安全なまちづくり、建築士の仕事の
アピール活動

実施場所：伊予市灘町・下灘駅

参加者数：10名

伊予支部は「建築士の日」の行事として、昨年につき、近い将来おこると考えられる「東南海・南海地震」に対する啓蒙と災害に強いまちづくりを推進するため、【木造耐震診断および木造耐震改修工事】をアピールしました。伊予市の三つの夏祭り「6月中山ホテルまつり」「7月伊予彩まつり」「9月下灘駅プラットホームコンサート」の会場で市民の皆さんに配布する予定でしたが、中山ホテルまつりが天候不良で中止になり他の2会場にて配布させていただきました。

多くの市民の皆さんが各会場に集まって来られ、用意したウチワはすぐに配りきりました。このウチワに印刷した内容を市民の皆さんが読んで、少しでも建築士と地震に関心を持っていただくことができればいいなと思います。

本年は以上の活動に加えて、10月に行われる「中山映画祭」に協賛という形で参加させていただき、アピール活動をさせてもらう予定と、11月に行われる「地区の防災訓練」に参加し、体験コーナーを設けて家具転倒防止やガラス飛散防止を体験してもらう予定です。



伊予彩まつり



伊予彩まつり



下灘駅夕焼けPHコンサート

ジオパーク研修(宇和町編)

開催日：令和元年8月4日(日) 10:00~18:00

参加者：会員=8名、一般=12名(内8名：中高生)

天気も晴れ、そこそこ暑い日でしたが、20名の参加者で、研修をしました。今回は、宇和町編ということで、まずは名水百選の“観音水”の散策から、開始しました。

昨年の水害の跡も、少し有りましたが、涼しい散策になりました。



川縁で、“流しそうめん”と、“たらいそうめん”の食を取りました。…ごちそうさまでした。

次に、“笠置峠古墳”の散策をしました。観音水とは、



打って変わって、暑かったです。

研修者の中には、以前に子供と一緒に、保護石積みに参加した者もいたようでした。

八幡浜と宇和の境に位置し、大変見晴らしの良い所でした。



3ヶ所目は、西予市指定有形文化財の“山田薬師”のお参りをしました。

西予支部長 信宮 靖

大師堂をつぶした、大岩の上には、薬師如来様がおられました。



ついでに、ジオパーク以外ですが、“43番札所：明石寺”も、お参りしました。このころには、暑さも少し疲れてきました。

最後に、宇和町・卯之町の“中ノ町の、町並み”の散策をしました。



日傘が、お似合いの下元さん。少しおつかれぎみの、山内さん。

ちょうど、オカリナの演奏会もしており、東京から来たという、娘さんもいました。



一通りの散策を終え、待ちに待った、“御食事会”です。



昔の旅館を、改装されたようでした。西日がとても、暑かった！

みなさま、おつかれさまでした。

明治時代に移築された新谷藩の 武家屋敷(團上邸)調査

文化財・まちづくり委員会 菅野 隆次

調査年月日：令和元年8月30日(金)

場 所：大洲市新谷

参加人数：文化財・まちづくり委員9名

今回の調査の屋敷は、大洲市中心街から東側に位置する、新谷町というところに建っています。銀河鉄道999の作者松本零士氏の少年のころの疎開地で、昭和19年(1944)から暮らしていたことでも話題になりました。

この調査の事を報告する前に、この地にありました新谷藩について少し紹介いたします。新谷藩は、大洲藩初代藩主加藤貞泰が、大洲藩6万石を二男直泰に分知することを元和9年(1622)の遺言で約束していました。最初は、兄の泰興と弟の直泰が3万石ずつ分配するよう貞泰の正室法眼院が主張しましたが、家老の大橋佐久衛門が反対し、兄の泰興と弟の直泰の間で紛争が起きますが、加藤家親族の間で調停案が出され、幕府の軍役や普請は6万石で賄う、幕府出頭の際には、泰興と直泰の家臣が同様に行く、新谷藩は1万石の大名として扱う、この内容を幕府老中、酒井忠勝・松平信綱の内諾を得ることができここに長い紛争が解決し、大洲藩は、実質5万石ですが、6万石の格式を保ち新谷藩は1万石の大名として扱われる藩として認められました。新谷藩の陣屋内に存在した建物の一つに、幕末の慶応4年(1871)3月に建築された、麟鳳閣という建物があります。

明治4年の廃藩置県後は、多くの建物がその用をなくし、解体、移築などで、他の建物に応用されたのではないかと推測されます。團上家の有る敷地は、明治9年(1876)の段階では地元の住人H氏が所有していました。この建物は、棟札より、明治5年(1872)の建築ということがわかっています。そして、近隣の言い伝えによると、旧藩主加藤家の屋敷の一部を移築したと伝えられており、棟札には「丁時明示第五壬申歳／春王三月八日作之御亭也」とありその言い伝えを裏付けています。ただし、どこの屋敷かは、不明です。

今回の調査のきっかけは、施主が現状の形を記録して、

次のステップである改修保全に結びつための資料を作成することになり、大洲市の教育委員会に相談されその後われわれの文化財・まちづくり委員会に話が持ち込まれました。

長雨が続く8月30日の金曜日、委員会のメンバーの内9名が、新谷町公民館駐車場に集結。大洲市教育委員会の白石学芸員とともに現地に向かいました。現地では、施主の團上氏が待ち受けられ、座敷で概略の説明を受け、4班に分かれて調査を開始しました。

この建物は、木造平屋建て、書院造りの形式を持ち、現在は傷みが激しいところもありますが、整備すれば素晴らしい庭園と中庭を見ることができ、広縁を有する書院造りの入母屋瓦葺きの平家の建物です。



西面にある栗、欅材で普請された土塀付きの武家屋敷風の門を潜り抜けるとすぐに土間付きの玄関があり、そこには式台と上がり框がしつらえてあります。

全体としては、長い期間無人の住居だったせいか、いたるところに雨漏りや損傷が生じていますが、この屋敷を購入された現在の持ち主である團上氏が、自ら清掃片付けをされて現在の形状を保全されています。まず屋内の造作であります。中心となる座敷の間と、その手前の部屋とは、柱材のしつらえや天井の高さなどから見て、屋敷の中心となる床の間、書院付きの座敷は移築の際、建て増しされた形跡がみられます。

座敷の床の間の床框は紫檀で、床は薄縁床、床柱は檜四

方柱であります。床脇の床板は、奥行三尺の檜の一枚板が使用されています。座敷の庭側の周りは南側、東側に入側の板廊下があり、庭と座敷の間の緩衝（バッファ）空間があります。この形態は、江戸後期から明治初期の書院造りに見られる空間処理であり、現代でも和室の空間処理には、多く見られます。



入側の屋根は、下屋形式になっており屋根の構造面での負担を軽くしています。入側の軒裏は、通常本軒の野垂木で構造上のはね出しを支えますが、この建物は、化粧垂木そのものにもはね出しの構造負担をさせて、7本ごとに化粧垂木の倍の太さの力骨垂木が配されています。私は、初めて見る入側の垂木の配置で当時の大工の技能の多様さ、息遣いを感じ、こういった発見が伝統的な建物を調査する際のだいご味であり面白さでもあったと感じました。

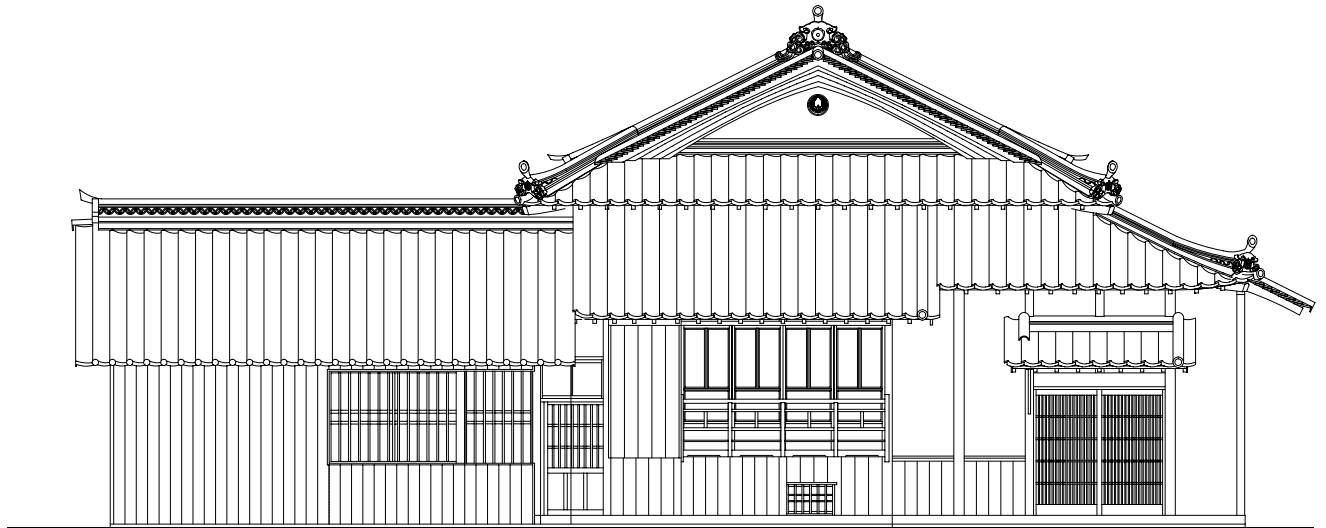


一方玄関わきには、茶室がしつらえてあり、床柱は、面皮付の節のある松。南面の庭に面してひじ掛け窓。内向きには、円形の下地窓があります。天井は、低く抑えられ、長押、付け鴨居のない、簡素な造りになっています。次の間には、北・南面より半間の位置の長押に継ぎ手があり、明らかに移築の際の痕跡だと思われます。

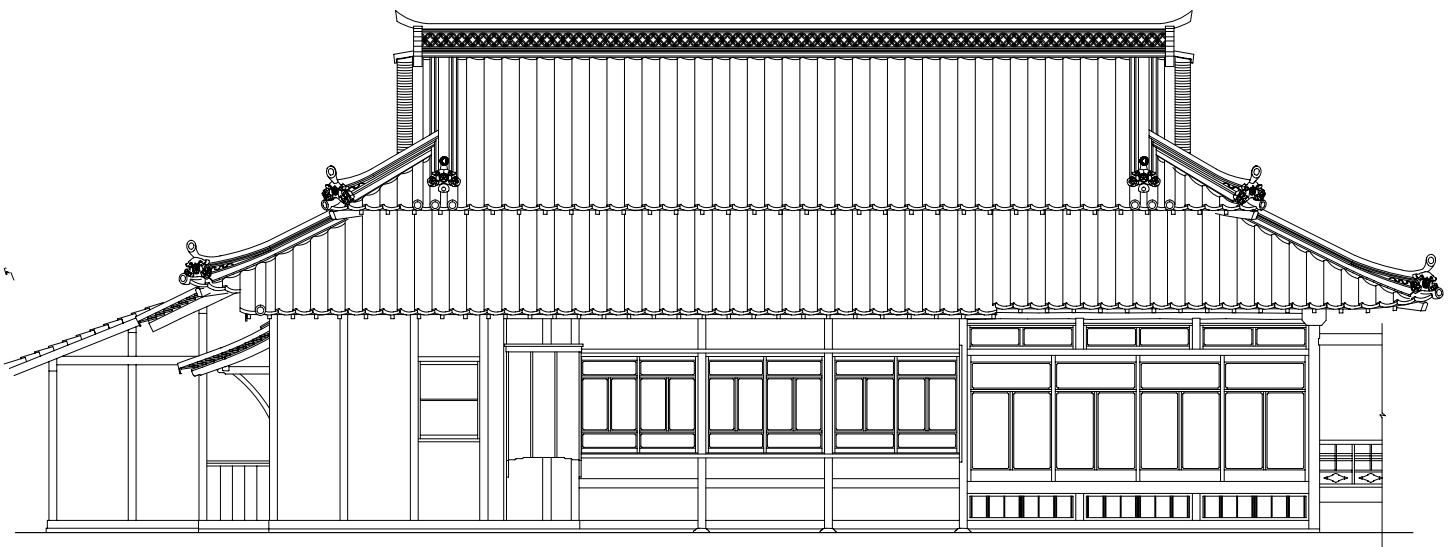
屋根の形状は、入母屋造りで、平瓦葺き、破風は、漆喰仕上げです。



この建物は、庭の立ち木の高さで全体の姿が見えにくく屋根の形状が読み取りにくかったので、ドローンを飛ばして撮影しました。屋根のドローンによる調査は今回が初めてでその効果は大きいものでありました。明治5年（1872）から147年経過しており、それまでに何度かの修復の痕跡は見られますが、風雨にさらされる部分の損傷が大きく、保存するためには、少しでも早い手当てが必要であると感じました。



西立面図



南立面図

暮らし+ (プラス) 勉強会

モザイクタイルコースター作りワークショップ報告

女性委員会 永井 由起

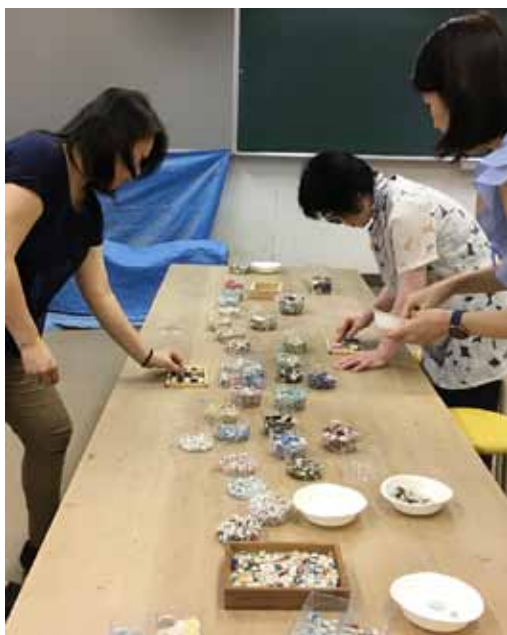
令和元年8月25日(日)、愛媛県県民文化会館別館にて講師に「DIYと水回り雑貨のMONONIMO」西岡建材株式会社の西岡統子様をお迎えし、モザイクタイルコースター作りワークショップが行われました。

「暮らし+ (プラス) 勉強会」とは、いつもの暮らしに素敵なものをプラスし、生活を豊かにするものを提案する体験型勉強会です。今回は建築士会会員11名、一般5名(小学生を含む)、計16名が参加しました。



講師の西岡統子先生

まず木枠の中に、自分の好きなタイルを配置します。タイルは丸いもの、四角いもの、花形、実家の浴室に使われていたような懐かしい玉石タイル……たくさんの色や形、大きさが異なるものをどのように選んで配置するか。この時間が一番楽しい時間でした。



楽しいタイル選び

配置が決まったら裏を木工用ボンドで接着して固定します。ここで、10ミリ角の細かいタイルをたくさん選んだ方は四苦八苦されていました。かくいう私もそうで、かなり時間がかかってしまいました。途中、目地が入らない、というところは配置を調整していきました。

タイルがボンドで固定されたら、木枠をマスキングテープでカバーし、目地を埋めていきます。ある程度固まったら、先生が余分なものを洗い流してくれます。目地が完全に固まるのは翌日だとのことでした。



皆さんの作品

その後、各自の作品を持ってプレゼンテーション。どのような意図で制作したか、イメージなどを紹介しました。その際に先生がおっしゃったのが「その日に着ているお洋服の色を選ばれる人が多い」とのこと。意図して自分の服装の色を用いた人もいらっしゃいましたが、確かに、何人かの方が思いがけずその日の服装の色のタイルで制作していて驚かされました。

リピーターも多いこのタイルコースター作りワークショップは、MONONIMOさんのホームページから予約できます。今回、ご都合が合わずに参加できなかった方も、機会があればトライしてみてください。お子様と一緒に楽しめます。

女性委員会では今後もこのような体験型勉強会を企画していきたいと考えています。ぜひご参加ください。



各自の作品を持って、先生と一緒に集合写真

令和元年度中四国若手建築志(士)交流会 in おかやま報告



開催日：令和元年9月28・29日(土・日)

開催場所：伊部つながりの森、閑谷学校他

参加者：3名

青年委員会 副委員長 長岡 康広

松山支部 武智 良太

和田副委員長、武智さんと共に岡山県へ行ってきました。伐採体験と論語のエクスカージョンということで、あまりいいイメージを持ってなかったのですが、伐採体験の場所は、思ったほど山奥ではなく、ホルモンうどん、窯焼きピザ、乗馬体験も出来て当初のイメージを大きく覆し、とっても楽しい2日間でした。



伐採体験や製材見学で疲れた体を「和気鶴飼谷温泉」でしっかりと癒すことができ、これも良かったです。

夜のキャンプ

ファイヤーでは、私が参加した本当の目的の「2020年青年・女性建築士の集い中四国ブロック愛媛大会」のPRを岡山県の協力も得て、余すことなく出来ました。

来年は、6月13、14日に青年・女性建築士の集い愛媛大会が開催され、9月には鳥取県で若手建築志交流会が開催されます。若手の皆様、是非ご参加ください。

最後に和田副委員長、長時間の運転お疲れ様でした。ありがとうございました。

9月28日～29日に岡山にて行われた、中四国若手建築志(士)交流会inおかやまに参加させていただきました。

初日はヒノキの伐採体験と制作作業見学。初めて手にするチェーンソーに動揺したのか足を踏み外したりもしましたが、無事丸太を切り落とす事が出来ました。

また、伐採体験の会場である伊部つながりの森では乗



馬体験等も出来、同伴していたお子さん達にも好評のようでした。

その後の製材所での作業見学と座学では、樹木1本から材を取ること

の難しさを学ばせていただきました。

夜はキャンプ場にてバーベキューが行われ、各県の皆様との懇親を深めることができました。

2日目は閑谷学校見学。国宝である講堂で、昔ながらの形式で論語体験。

この2日間は、日頃なかなか出来ない経験の連続でした。また次の機会にも参加させていただきたいと思えます。ありがとうございました。

ねこ

今治支部 重松 憲太郎

こんにちは。この度、伊予支部の石田さんからバトンを受け取りました今治支部の重松と申します。いまいち何を書いてよいのかわからないので私事ですが最近の出来事を書いてみようと思います。

1年程前より我が家では猫を一匹飼っています。知り合いの設計事務所の方が「えひめイヌネコの会」という動物保護団体にて活動しており、その方を介して1匹子猫を譲り受けました。

私自身は今まで猫を飼った経験はなく、どのように接していいのかわからない状態で少し不安もありましたが、幸い妻が子供のころ猫を飼っていたため、何とかなるだろうという思いで招き入れた次第です。

実際に飼い始めると、これが思ってた以上にかわいい。そして楽しい。子供がまだ小さいので動物を飼うことによって色々学べることもあるんじゃないかという本来の動機を忘れての私と妻の溺愛ぶりに、当の息子が嫉妬してしまう始末です。

と、これまで建築とまったく関係のない内容を書き連ねてきましたが実は猫を飼いだして色々と解ったことがあります。皆様の設計の参考になればと思いますので、少しですがご紹介します。

爪による各部への傷つきに関しては、杉のフローリングは恐ろしく傷がつかます。爪を研ぐためだけではなく、普通に走っていても傷だらけになります。最初に見たときは浮造り仕上げかと勘違いしたくらいです。これに対してパイン系は比較的傷がつきにくいです。単純に杉に比べて硬いためだと思いますが、実際経験してみるとその差は歴然です。畳に関しては多少引っ掻いていますが、目積表の場合は全く引っ掻いた跡がないようです。畳屋さんに聞いてみたのですが、目積の方が高いので猫なりに気を使っているんじゃないかという謎の回答をいただきました。

壁は思ったより引っ掻いたりはしません。クロス、左官壁、無垢板等の仕上げ材による違いも見受けられません。強いて言うならジャンプの際の足場になるようなところは多少やらかしてます。また、柱に麻縄を巻いて爪とぎ場を作っているのも機能しているのかもしれませんが。カーテンはボロボロになります。風で揺れるのが楽しいので、どうしても遊んでしまうのだと思います。動きは非常に素早く、身軽に走り回ります。

1200位の高さのカウンターであれば余裕で跳び上がり、カウンターの上でまったりとしています。カウンターの上に置いている物などは比較的問題なく、落としてはいけない物などは認識しているようです。

匂いに関しては、思っていたより気になりません。もう

少し獣臭がするのかなあと思っていたのですが、最近の消臭シートや猫砂などの性能が良いせいか、ほとんど気になりません。もしかすると外から来た方は気になるのかもしれませんが、家族は誰一人気にならないようです。

ちなみに毛は大量に抜けます。ズボンやシャツはいつものまにか毛だらけになってます。出かける前のコロコロは必需品です。それぞれの猫により個体差があるかもしれませんが、うちの猫様はこんな感じで毎日を過ごしております。

さらにこの体験が実際の業務に最近役に立つことがありました。新築住宅の計画で、入居後、猫を飼う予定の方の住宅を計画させて頂くことがあり、打ち合わせでは各部の素材やキャットウォーク、キャットタワー等の寸法の相談を受けました。いつもなら不確かなことは調べながらの返答となることが多いのですが、今回に関しては実体験に基づき的確かつスムーズにお答えすることができました。さらに業務とは関係ない猫談議でより深く信頼関係を築くことができたような気がします。我が家の愛猫に感謝です。

建築に限らず、まだまだ経験したことのないことはたくさんあります。知識だけであればインターネットや参考書、情報誌などにより最近では簡単に情報を取得することができますが、やはり自分自身で体験したことの方が現実的であり説得力があります。どんなことでも気になることがあればとりあえず体験してみるものが改めて重要だと感じています。

私自身、建築士会歴は結構長いのですが、入りっぱなしの状態ですと幽霊会員でした。ここ数年で少しずつ活動にも参加させてもらうようになりましたが、これも新たな体験だと思って続けていくことができればと思っています。あまり建築や建築士会とは関係のない内容をダラダラと書いてしまいましたが、今後ともよろしくお願ひします。

次回は同じく今治支部の曾我部準さんをお願いしています。曾我部さんよろしくお願ひします。



けんちくの輪

松山支部 八束 智恵美

松山支部道後地区長の相原昌彦さんよりバトンを受け取りました八束智恵美です。

『令和』という響きにも慣れ、元年もしくは1年と書くのにもやっと馴染んできた今日この頃、もう何年前なのかわからないと思うので正直に書きますが、平成をジャンプして軽く乗り越えた昭和52年に松山で生まれ、建築士会館から歩いて10分程度の市内中心部(だと勝手に思っている…)、現在の会社兼自宅と全く変わらない場所で育ちました。

幼いころから両親が金物店を経営していたので、金目の物といっても本当に金属で出来ているという意味での商品に囲まれ、その名残なのか、今では金物屋ですが立派な金属アレルギー持ち。父の代からの建築金物店の子番頭をしております。家に入り出しているのは大工さんや職人さんばかり。男性に囲まれることにあまり違和感を覚えることなく育ちました。

当時のいよてつそごうが近くて便利そうかも?という理由で松山南高校へ進学。将来どうしたいかを考えるよりも、歴史がキライだったので迷わず理系へ。周りを見渡すと40人クラスに女子6人。当時のクラスメイトたちはその6人を女扱いしていたかどうかという、時代先取り、今では当たり前前の男女平等。進学前に思い描いていた華やかな女子高生とはかけ離れた、けれど楽しかった高校生活を送りました。

大学進学について考え始めた頃、本当は少しでも近い関西方面を選びたかったのですが、まだ地震の名残が。そこで関東方面を視野に入れたものの、東京はちょっと都会すぎるし、そこそこ華やかで便利そうかも?という、高校進学の時にも頭をよぎった理由で横浜方面へ進学。小さい頃から身近だった建築業界へ行ってみようかと思いつき、大学・大学院と6年間建築を学びました。都会での大学生生活は華やかなものを想像していましたが、実際は徹夜で図面を書いたり、模型を作ったり。さらには、ひたすら論文を書いたり、発表のためのパワーポイントづくりに追われたり。今となっては、様々なPCソフトを使えるようになったことが社会へ出てからも役に立ちました。

卒業後は、某マンションディベロッパーへ就職しましたが、今思うと超ブラック企業。日付が変わる前に帰宅できたことはほぼなく、東京の終電にも乗り遅れ(もちろん仕事で)、一棟まるまる社宅や独身寮になっている

マンションへ向けて帰るタクシーに相乗りさせてもらう毎日。それなりに頂いた給料も使う時間がなく、「今日から夏休みね」と突然言い渡された片手指で数え切れる日数の夏休み。何をしようかと悩む選択肢もなかったため、近所のディーラーで、①今ある貯金で買える②すぐ乗れる車を買ったことだけ覚えています。

そして、建築業界を揺るがす耐震強度偽装事件。今思えば…ですが、当時浦和駅徒歩15分のマンションに関わっていました。業界の中でも金額的に高いと言われていましたが、70㎡そこそこ3LDKでも4000万円超。競合するのが、ギリギリ東京都で100㎡越えて3000万円…なんでこんなに。と当時は思っていましたが、そこにはやっぱり理由が。ニュースで流れてくる、聞いたことあるマンション供給会社の名前。まさに姉齒物件だったのです!!

という経験もしつつ、その後はいろいろありました。本当にいろいろありました(笑)。しかし父のおかげでまた生まれ育った松山へ出戻り、家業の金物店を手伝っています。その父も他界して12年。他界した日に3歳の誕生日を迎えた長男も気が付けば15歳。なんとなくで南高を選んだ当時の私と同じ年齢になりました。建築士会へ入会した当時、よちよちだった次男も5年生になり、なんとなく兄ちゃんがいて便利そうかも?(笑)という理由で受験勉強をはじめました。歳をとるはずです。



2015年に初めて参加した全国大会(金沢にて、中央が著者)

新しい令和の時代に、ふた昔前の昭和の人扱いされないう、取り残されないよう、日々努力を重ねていこうと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。次のバトンはいつも仲良くしてもらっている松山支部の大塚美由紀さんをお願いしました。よろしく願いいたします。

HOUSE



鉛色の空が小さな集落をすっぽりと覆った放課後、僕は校舎の屋上の柵を乗り越えて下を見下ろしていた。白い運動靴の向こう側には、人生の終止符をうつために相応しい黒褐色の地面が硬い顔をして待っている。湿気を帯びた風が身体を包んで、雨の匂いがした。

1988年、パリの凱旋門は修理のため、トリコロールの幕にすっぽりと包まれていた。ファッションウィークまであと一か月、僕はある日本のブランドのショー会場設計を請け負った。

ここ数年、パリコレ参加のメゾン・ブランドは、教会や古い農家の納屋など、特徴のある空間にランウェイが設営される傾向にある。服だけでなく、ショー全体のクオリティを競っていた。

真帆のブランドは2度目のパリコレ参加となる。原色のレースを幾重にも縫い合わせ、ポップだが甘く女性らしさに溢れるデザインだ。国内ではデビューしてすぐに注目を浴びた。価格はワンピース1着数十万とハイブランド並みだが、好景気に沸く日本の女性たちには、それがステータスとなった。彼女たちは金曜の夜になると高級ブランドの服を纏い、煌びやかな街へ出かける。

「バーでね、シングルモルトを丸い氷、転がしながら飲んでる女がさ、実は胸やけするほど甘いスイーツが好きだったりするのよ」

真帆と初めて会ったとき、苦笑いしながらそう言っていた。オレンジ色の髪を三つ編みにした姿は、赤毛のアンのような、と思った。彼女の大きな瞳はアトリエの隅々にまで神経質に動く。フェルトのスリッパを履き、音もなく僕に近寄って、宜しくお願ひします、と名刺をくれた。

クレヨンをひっくり返したような多彩な部屋で、彼女は何か、を産んでいた。数人のスタッフが黙々と縫ったり、切ったりする午後、窓からの陽と、手元を照らすための蛍光灯の白色が、深紅の生地の上で混ざっていた。



僕は、パリのサクレクール寺院を背にした細い路地の骨董屋で、ひとつのブローチを手にとった。硝子の小さな葡萄は漆黒で、透かすと深い紫が現れる。金の縁取りが所々剥がれ、アンティークの重厚感を加えていた。裏

面にピン針は着いていない。

この街ではインスピレーションの塊に、至るところで遭遇する。それは僕が新しく、この世に何かを生み出す時の「芯」となり、やがてコンセプトを纏い、クライアントの希望と融合して溢れ出る。

絶望の中に居る時ほど、ただ闇雲にもがいてみることも必要なのだと、僕は年齢を重ねるうちに気付いた。夢中で歩き続け、疲れて眠る。目覚めは必ずオトズレルと疑われないでいることも「才能」だと経験しているからだ。

僕はブローチを、店主の言い値の500フランを払ってポケットに入れた。目の前の店から出てきた女性が、赤い傘を広げる。校舎の上から眺めた、あの鉛色の空が頭上遠くにあった。

真帆は僕よりずっと若い。可能性の海を泳ぐ彼女の姿は透き通って見えた。未知の深い海の色は、この葡萄のブローチと同じ色だ。

「トールのアイデア、すごく好き。葡萄の中のランウェイなんて見たことないわ」

彼女は僕のことを「亨」ではなく「トール」と呼ぶ。電話の声は、心に柔らかく染み込んでいった。

日本へ送った会場デッサンは、円形のテントを葡萄の粒のように連ねて、その中心にランウェイが走る。最後の粒の天井はビニールで、自然光が降り注ぐ。二週間のコレクションの間だけ現れるマジックだ。

「真帆の服には丸い空間がいい。カラフルで甘くて素直な色気があるから」

僕がそう言い終える途中で、彼女は眠ってしまった。コレクションが迫る中、アトリエは戦争状態だろう。酷い疲労の中、真帆は毎日連絡してきた。



高校3年の春、僕は進路面談で、初めて担任教師に芸大を希望していることを伝えた。父はどうしても許さないと。母はただ泣くばかりで、僕は膝の上の握り拳を震わせた。君は東大じゃなかったのか、と何度も確認してくる担任に、最後まで首を横に振り続けた結果、両親に報告されたのだ。

「こんな田舎町でも、お前には最高の教育を受けさせた。塾や家庭教師に幾らかかったと思ってるんだ」

第7話 Rooftop

～創造し続ける人へ～

田真 夕楽
たま ゆら

ブレイクコーナー

僕は反論することができない。父の怒りに対して僕の武器は、ただ何かを自分で表現してカタチにしたい、という想いしかなかった。

「その何か、とはなんだ」

「わからない。でも絶対あるんだ！」

担任からも今更芸大を目指しても、実技試験は無理だろうと告げられた。どの学科を受けるにせよ、小さい頃から英才教育を受けた芸術家の卵たちも多い。何年も浪人して、目隠しで石膏デッサンを描ける者もいると聞いた。

それから何か月も過ぎ、最終進路面談は欠席、両親とずっと口をきかないまま、受験申込日も締め切られてしまった。

焦りはまったくなかったが、ただ空しさに窒息しそうだった。そしてあの日、僕は屋上に立った。

柵の外に立つと、いままで居た内側の世界が全て偽物のように遠のいてゆく。誰かが、卒業式のためのピアノを練習していた。もうすぐ雨が降るだろう。生温い空気が僕の生きる世界に充満していた。

「トールせんぱーい、なにしてるんですかー」

足元のずっと向こうで、箒と塵取りを振り回しているセーラー服がいた。顔は遠くて判らない。

「せんぱーい、第2ボタンくださーい」

セーラー服はぴょんぴょんと飛び跳ねている。僕はその姿をぼんやりと眺めていた。彼女は返事を待つ気もなく、4階までの階段を一気に上って屋上に現れた。そして、身軽に柵を乗り越えて、僕の横に立つ。

「トール先輩もここ好きなんですね。私も好きなんです。柵の外にいますと開放感、ハンパないですよ」

「君、誰？」

僕の声はかすれていた。

「トール先輩のファンです」

「ごめん、知らない」

僕は無意識で喋っていた。現実とあの世の狭間で揺れていた心が、徐々に柵の内側へ引き摺りこまれる。彼女の屈託のない声が五月雨のように降り注いで心地よかった。やがて僕たちは一緒に柵を越え、校舎の階段を下りる。運動場には、放り出したままの箒と塵取りが転がっていた。

老人ホームの中庭にはハナミズキが植わっていた。昼食後、大きな窓ガラスの側に車椅子を寄せ、ゆったりと

眺めるのが、今の僕の日課となった。

「亨先生、マスコミの方が取材に来られましたよ」

明るい介護士の声が迎えに来た。

「時間は止まってくれないねえ」

僕は90になった。日本はオリンピック開催日をゴールに、まっさらな道や建物だけでなく、古い建造物が時代を含んでリニューアルされ、新しいカタチとなって生まれている。

「ここは先生の出身地だと伺っていますが、どうしてご自宅ではなく老人ホームを建てられたのですか？」

「成り行きだよ」

まだ若い記者は、話の糸口を掴もうと必死だ。

「ここは先生の母校の跡地だそうですね」

「僕だけじゃなくて、入居してる半数が卒業生だよ」

記者はオーバーに頷いてみせる。

「世界的に有名な先生が設計したホームは、世界的に有名な老人ホームにもなりましたが、なにかこだわりはありますか？」

今日は建築専門誌の取材ではない。ファッション誌の記者は、好奇心をストレートな言葉にしてきた。今回は妻の記事のおまけ、みたいなものだから、仕方なく答える。

「感触、にこだわったかな。例えば壁面も石、コンクリート、布、香りのするヒノキをブロック状に組み合わせたりと様々なんだよ」

記者は辺りをキョロキョロと見まわし、やはりオーバーに頷いた。

「感触から得る情報は、脳にダイレクトなんだよ。それが居心地に直結しているんだ」

雨が降ってきたようだ。窓に水滴が滑る。

「奥様の真帆さんのアトリエもあるとか」

「それ造らないと、一緒に住んでくれないからねえ」

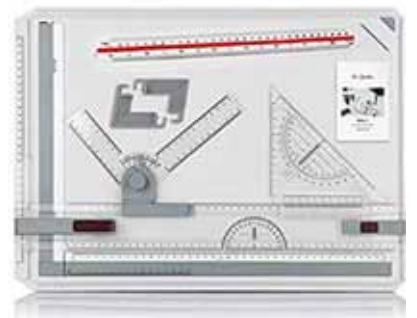
通り雨だろうか、雲の動きが速い。車椅子の足置きに乘せられた僕の足には、フェルトのスリッパが優しくあった。

僕は、何か、にたどり着いたのだろうか。

あの日、屋上で切望した何か、を十分に表現しつくしたのだろうか。

胸の芯で、微かに雨の雫が震えていた。

HOUSE 完



あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和2年 1月号 (132号) 令和元年11月21日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字 (25文字×43行×横2段) のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

また宜しければ3枚程度まで題名を添付してください。

会員の皆様の後参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづちに」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会 (士会事務局内) 宛
FAX 089-948-0061

編集後記

昨年9月から連載して頂いていた小説「HOUSE」が今月号で完結いたしました。

田真夕楽先生は、「いしづち」に新たな息吹を吹かしたい、という私たち委員の気持ちを汲んで頂き、私たち建築士からの目線ではない別次元の表現をして頂きました。

プロの作家であるため、本来のお名前を隠しての連載となりましたが、お忙しい中、無償の依頼であったにも関わらず、気持ちよく執筆して頂き本当にありがとうございました。

情報・広報委員としては、来年の5月号から新たな投稿も考えて行こうと思っています。

執筆をしたい。と思われる方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡を入れて頂いたらと思います。

よろしく願います。

(大平将司)

〈いしづち〉2019/11

令和元年11月発行

発行人 会長 赤根涼忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: @ehime-shikai.com

印刷所 アマノ印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/大上 恵子 山本 晶子 政石 信行 白石 学 武智 良太 成松弘之助